

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立西宮高等学校

活動の実際（単元名）

県西祭（文化祭）

指導目標

障害のある生徒との交流を通して、障害への理解を深める。

事前学習

主に1年次生を対象にパートナーという形で県西祭当日に半日かけて行動を共にする生徒を4月中に募集し、県西祭までに2回の研修会（芦屋特別支援学校の教諭に依頼）を実施する。主に障害に関する知識や、実際交流する生徒の特性などを理解する。

学習活動（具体的な取組）

県西祭当日の交流

支援と留意点

当日は午前10時から午後1時頃まで昼食をはさむ形で行動を共にした。中には発語がない生徒や、パニックを起こしやすい生徒もいるので、事前の研修を通して対応などを伝えている。教師は基本的には「見守る」形で支援をし、生徒が困難を感じた際に支援の在り方を伝えることを重視している。

評価

交流後に実施したアンケートにおける満足度では、89%の生徒が「よかった」と回答（11%の生徒は空白）。自由記述内でも「とても楽しかった」と回答する者が多数を占めることから、普段から交流の機会を持つことは、大変有意義である。

活動の様子



吹奏楽部による歓迎演奏



芦屋特別支援学校生徒による作品を展示

事後学習

アンケートを実施し、自己の活動を振り返る。

成果と課題

<成果>

机上の学びとともに、実際の経験も大切ということ、1年次生の約3割の生徒が実感できたことはとても大きく、この流れを大切にしたい。

<課題>

「楽しかった」の一步先にある、「相手は楽しめたか?」「こういう困難なことがあればどうすればよかったか」「社会に出て一緒に働くとなると、どのようなことに気を付けるべきか」ということまで考えられる仕組みづくりが必要である。